



# 神奈川県重症心身障害児(者)を守る会

神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘

2-11-10-103 谷口方/

第31号 2023/10/30 日発行



横浜ベイブリッジ

## 巻頭言

今年は観測史上一番暑い夏だったそうです。ゲリラ豪雨、線状降水帯などの文字が、頻繁に目に入るようになり雨が降れば土砂降りになるのに慣れてしまった感覚もあります。

中学生の時、地理の時間に日本の特徴は列島が縦に長いこと、四季がある事と習いました。その四季がばんやりとして、冬、夏になってしまった感がありますが、それでもその季節になると今は秋の紅葉、ハロウィン、お節料理などの文字が目に入るようになりました。季節を楽しむ間もなく一年過ぎるのが早く感じるこの頃です。

4年ぶりに開催された全国大会広島。会場が原爆ドーム、資料館の近くでした。原爆ドームを実際に目にした時、何か分からない感情が黒い塊のようにズンと胸に落ちてきました。

多分今の世界状況が日々生活に不安を与えていて、前に見た時と違う感情が湧いたのだと思います。資料館もゆっくりと見て回りました。

今回、全国大会が広島で開催されたことは大きな意義があったように思いました。

平和な世であってこそ「最も弱いものをひとりももれなく守る」というこの言葉が生きるように思いました。

会長 谷口 久美

# 地域共生社会の実現につながるコロナ後の私たちの未来

神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会  
会長 水口浩一

本年度から会長に就任しました社会福祉法人みなと舎ライフゆうの水口と申します。ご挨拶として、当法人と私の紹介、コロナの先に思うことを述べさせていただきます。みなと舎では、利用者さんのことを「メンバーさん」と呼びます。それは、「共に暮らしを創っていく人」という意味からで、法人開設以降 25 年以上にわたり「メンバーさん中心の支援」を理念に、メンバーさんとともに地域を変えていくチャレンジをしてきました。2014 年に横須賀市の湘南国際村に開設した重症心身障害者施設ライフゆうは、「命は救えたが、人生は救えているか？」を施設のメイン理念として、メンバーさんの生活の場としての病院とはどんなところかを考え活動しています。また、私は小児神経科医として小児病院等で重症心身障害者や医療的ケア児の支援にかかわってきましたが、理念に魅せられ 2017 年からライフゆうの活動に参加しています。

ところで、2020 年の初頭から始まったコロナ禍は、メンバーさんの生活を一変させる非常に大きな災害でした。わたしたちのメイン理念「命は救えたが、人生は救えているか。メンバーさん中心の支援をしているか。」とコロナ対策を「どこまですべきか」との戦いの日々でした。ただ、そのジレンマに悩み続け、大きなクラスターを乗り越えたことで、より前向きにコロナをとらえられるようになったと感じます。コロナ禍を振り返ると、「得たものも多いかもしれない。一方で失ったものは悲観的なものだけじゃなく、これから取り戻していく活動へのエネルギーに換えていけるものじゃないか」と、私たちに大切なものを考える機会を与えてくれたのかもしれない。

さて、これからのポストコロナ社会は「メンバーさん」と地域の新たな関係性を創るチャンスかもしれません。地域共生社会の在り方は、その地域により異なりますが、共通なことは、いわゆる地域とされる場所（グループホームや在宅）や、いわゆる地域でないと言われる場所（入所施設）など関係なく、メンバーさんたちが『地域の住民』として認識され、「お互いが意識しあう」そんな、関係性を創っていくことだと思います。また、重症心身障害者施設やそのスタッフが持つポテンシャルは、コロナでズタズタになった「地域」を持続可能なものへ再構築するための社会課題の解決にもっと協力できるのではないかと可能性を感じます。「意識しあう関係性」とはそんな活動から生まれるのかもしれないです。コロナから生まれた出会いや活動が未来につながると、「コロナも悪くなかったな」と、10 年後くらいには思えるようになるのかもしれないですね。

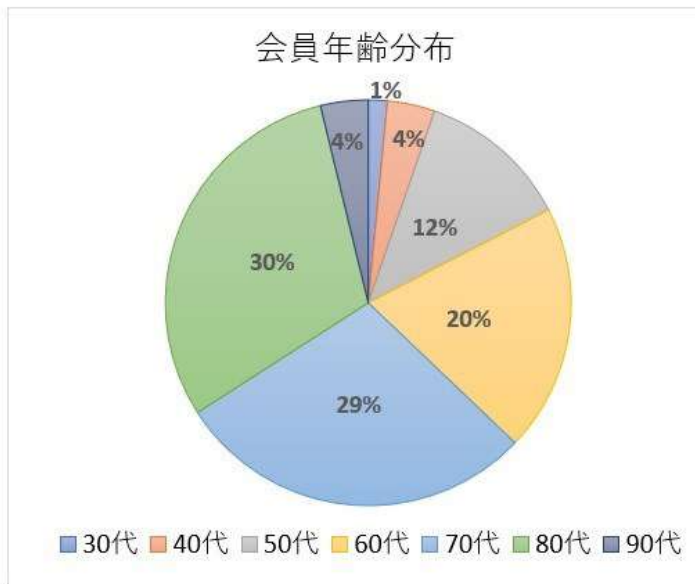


## 第57回 神奈川県重症心身障害児（者）守る会総会（報告）

去る2023年6月3日に、ユニコムプラザさがみはら(相模大野)において、令和5年度神奈川県守る会総会を開催いたしました。その概要をご報告します。

新型コロナウイルス感染症が2023年5月から5類感染症に移行となりましたが、移行直後のため今年度も来賓は呼びしない総会といたしました。その代わりに、神奈川県や政令指定都市からの御挨拶を頂戴して議案書に掲載し、行政の重心施策状況を御紹介申し上げます。

また総会への出欠返信用ハガキでアンケートを取りましたので、その結果をグラフにまとめ添付いたしました（ハガキ回収率70％）。



会員の高齢化が進み、総会欠席理由の40％が「高齢」「病気」の状況である事が分かり、会の運営を考える上で貴重な資料となりました。御協力ありがとうございました。

総会概要につきましては、以下の通りです。

### 1. 資格審査（定足数）報告

総会出席者18名／委任状提出者137名 → 議決出席者155名  
（会員総数196名の3分の2超え／会則第12条により、総会成立）

### 2. 議長／議事録認証人／書記

議長／伊藤会員、議事録認証人／高山・中川副会長、書記／佐藤幹事

### 3. 議案審議

第1号議案 令和4年度活動報告

第2号議案 令和4年度決算書及び監査報告

第3号議案 令和5年度活動計画

第4号議案 令和4年度予算書

いずれも意見は特に無く、満場一致で議案書の通り採択されました。

第5号議案 令和5年度会則変更

細則を定めるのは総会とすべきではないか、分会の補助金の5万円、10万円の根拠を明らかにすべきではないか、分会員は賛助会員もなれるようにしてもいいのではないかな等の意見が出され、意見交換を行いました結論に至らず、継続審議として再度総会に提案することとなりました。

第6号議案 令和5年度役員を選任

いずれも意見は特に無く、満場一致で議案書の通り採択されました。

事務局 小松 薫

新規役員の自己紹介文は7ページに下掲載いたしました。



# 第60回重症心身障害児（者）を守る全国大会



2023年9月9日10日両日、重症心身障害児（者）を守る全国大会が広島で開催されました。その概要をご報告します。

コロナ渦のため、2019年を最後に全国大会が出来なくなり、4年ぶりの開催でしたが、お天気も良く久しぶりの開催を祝福しているようでした。広い総会場には、千人弱と思われる人が集まり活気に溢れていました。ただ名簿が配布されなかったため、参加者の内訳は分かりませんでした。確認出来ただけでも神奈川県から7名（うち施設関係者2名）参加していました。



9日の行政説明では、新規に発足した「こども家庭庁」の業務についての説明がありました。説明時の資料は「両親の集い」にも掲載されています。

こども家庭庁の概要に加え、障害福祉施策の所管で厚生労働省との棲み分けについても説明があり、概要は理解出来ました。しかし成人（障害者）に対してもう少し説明が欲しかったし、質疑応答が出来たらと感じました。

第60回  
重症心身障害児（者）を守る全国大会

Welcome Hiroshima

Hiroshima Miyajima Seto Inland Sea

令和5年 9月9日・10日

リーガロイヤルホテル広島 〒730-0011 広島県広島市中区基町6-78  
TEL:082-502-1121 FAX:082-228-5415

【主催】全国重症心身障害児（者）を守る会 / 社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会  
広島県重症心身障害児（者）を守る会

【後援】こども家庭庁 / 厚生労働省 / 文部科学省 / 広島県 / 広島市社会福祉法人全国社会福祉協議会  
公益社団法人日本重症心身障害児福祉協会 / 独立行政法人国立病院機構国立重症心身障害児協議会  
社会福祉法人広島県社会福祉協議会 / 社会福祉法人広島市社会福祉協議会

その後の分科会は4区分あり、それぞれ色々なお話しがあったと思います。その中の第一分科会（国立施設部会）では、講演後の質問書が何と20枚以上も集まり、活発な質疑応答となりました。

10日の基調講演は、「重い障がい児に導かれて」著者の講演でした。北浦会長との出会いやその後のエピソードなど心温まる講演で、話を聞いて良かったのは私だけでは無いでしょう。その後の式典は、粛々と開催されました。

全国大会に参加すると色々と感じる事は多く、その必要性を感じます。来年の全国大会は東京と近い場所ですので、皆さんも是非御参加下さい。

事務局 小松 薫

## 北浦雅子会長のお別れ会に参列して



日 時：令和 5 年 6 月 25 日

場 所：全国社会福祉協議会 灘尾ホール

会場で式典が始まるまで、北浦会長がインタビューを受けてお話をされている映像が流れていました。参列される方々でざわついていましたが、そんな中で映像に映る北浦会長の優しい笑顔にある思いを抱きました。子供とあけぼの学園に通っていたころ、もう 45~6 年も前ですが、その時にお見かけした多分 50 代後半の北浦会長の姿が私の中のイメージでした。凛とした姿で近寄りやすいイメージでした。この日の画面の中の北浦会長は「お母さん」の顔でした。特に尚さんのお話をされた時のお顔が忘れられません。この守る会の活動の原点は「お母さん」だったのだと。北浦会長のあの笑顔を胸にとどめる事ができ嬉しかったです。感謝の気持ちがあふれたお別れ会でした。

谷口 久美

北浦雅子会長のお別れ会に参列してまいりました。

式場は、静謐な空気がただよい感謝と祈りで包まれていました。白い花の中の遺影は、遙か遠くを見つめているようなまなざしで「しっかり生きて子ども達を守ってくださいね」と仰っているようでした。ややもすれば気持ちが緩みがちになり、時代の波に押し流されてしまいそうな私は、改めて生き方を鋭く問われている気がしました。

北浦雅子会長はどんな未来を夢見ておられたのでしょうか。

祭壇で祈っていると、北浦雅子会長がすぐ傍におられるような不思議な感じがしました。私達に素晴らしい生き方を示してくださいました事に心より感謝申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

高山 幸子



# 横浜療育医療センター35周年を迎えて ～笑顔溢れる施設を目指して～

横浜療育医療センター 生活支援部長 長谷川 正宣

横浜療育医療センターは、横浜市内2番目の重症心身障害児者施設として本年2月に35周年を迎えました。当センターは開所以来、入所支援と在宅支援、福祉と医療を兼ね備えた施設として、「生活の中に医療がある」をモットーに利用者様とご家族、地域の方々に支えられてまいりました。

開所間もなく始まった年1回の地域との交流の場である「ほのぼの祭」は、積極的な地域の方々の出店や演目の披露等もあり、地域の恒例行事ともなっていましたが、コロナ禍では中止となり、昨年3年ぶりに、利用者様とご家族だけで短時間ながらも開催。「横療ラジオ」と称して、それぞれの思い出の曲にエピソードを添えて全館放送で聴取し、別会場では記念の家族写真撮影会を実施。利用者様とご家族との笑顔溢れるひと時を過ごすことができました。今年度は、制限はありますが地域の方々にも参加を呼びかけ、コロナ前に近い形で、利用者様とのふれあいを感じていただけるような企画を準備しています。



長期利用者様の生活においては、居室での対面面会も再開し、スーパーへの買い物や公園散策、外食といった外出活動も拡大し、季節行事は部屋単位から棟全体へと広げて開催しています。

また、独自の活動として、棟とは別のエリアに活動のみを行う日中活動室を設置し、毎日1時間枠を3コマ設定。1コマに6名ずつ参加により、小グループ活動の中で仲間意識を持った楽しみとして、普段経験しづらい異文化交流、準備から完成までに時間を要する創作活動、オンラインを活用した他施設との交流等、様々な経験で、日々の生活に潤いを感じていただけるような活動を行っています。

また、ボランティアさんに再開をお知らせすると、散髪ボラさんはいち早く大勢の方のヘアークットを、

ピアノ奏者の方は生演奏のすばらしさを精一杯の演奏で伝えていただき、ボラさん達の温かい心遣いに感謝と感動で、利用者様もスタッフも笑顔で溢れています。生活介護や放課後等デイサービスの利用者様も、社会参加や楽しみを求めて、欠席も少なく笑顔で通っていただいています。



コロナ禍での生活において、様々制限される中で、新たな生活様式を見つけてきました。しかし、コロナにより笑顔が減り、沢山の方が苦しめられ、悲しみに暮れた日々は忘れてはならないと思います。

その苦しみ悲しみを忘れることなく前進する中に、真の人を思いやる心や優しさが行動として、笑顔として現れると感じています。

これからも、コロナ感染対策は続きますが、皆さんからの真の笑顔のパワーとして、たくさんの笑顔で溢れるセンターでいられるよう、誠心誠意努力してまいります。

今後も、引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。



## 新役員の紹介

【川崎分会：佐藤 良子】

佐藤です。38歳の娘の母です。娘が4歳の時、わになろう会の勉強会に参加した時、娘を優しく落ち着いて過ごせる場所に連れて行ってくれた新井さん。

母はしっかり勉強会に集中することができました。チョットした手助け（温かさ）が大事なのだと感じました。

わになろう会でだけでなく色々な場面で楽しくお手伝いさせて頂いてきました。

7年前より小さなヘルパー事業所を運営しています。





# 編集後記

## 編集後記

暑かった夏もようやく息をひそめ、朝晩は少し寒さを感じるようになり少しホッとしているところです。

この時期、外を歩くと、どこからか金木犀の香りが漂ってきます。私はこの金木犀の香りが大好きで、オレンジ色の小さな花も控えめで可愛いな〜と思ったりしています。

わずか1〜2週間くらいのお出来事に過ぎないのですが、毎年楽しみにしている自分に気がきます。

9月に広島で行われた「全国大会」に参加することが出来ました。大会1日前に広島入りして、どうしても訪れたかった「広島平和記念資料館」に行くことが出来ました。五十年以上も前になりますが、高校生の時、修学旅行で訪れたので今回で2回目になります。当時は展示規模も、もう少し小さかったような気がしました。名称も「原爆記念館」だったような記憶です。

中に入ると、8割くらいは外国人の方で占められていました。日本人よりも陽気な民族が多いので会場は賑やかかな?と想像していたら、身動きが取れないほどの大勢の来場客にもかかわらず、誰一人として言葉を発することなく、息をのんで展示資料と解説文を真剣なまなざしで見つめていました。

中にはハンカチで目頭を拭く方もいらっしゃいました。私はこの光景を見て目頭が熱くなりました。「原爆記念館」から「平和祈念館」になった理由が分かったような気がしました。

平和である事の日常がいかに大切でもういものなのか、現代の社会でも起こっている事に無関心であってはならないと感じました。

編集委員…山崎

## 神奈川県重症心身障害児（者）を守る会 ホームページ <https://kanagawa-mamorukai.org/> ※リニューアルしました!



### ホームページのQRコードです



### リーフレットです→

#### 守る会中継情報表 (会中の公開)

1. 旗を立てて観望の為に、争い中の観望の中心を定め観望から。
2. 観望人が小さな芝居を観望の中心を定め観望から。
3. 観望人が観望の中心を定め観望から。

#### 神奈川県重症心身障害児(者)を守る会

活動の場として、観望の中心を定め観望から。

活動内容	活動時間	活動場所
観望	10:00 - 12:00	観望の中心を定め観望から

#### 観望の中心を定め観望から

観望の中心を定め観望から。

#### 観望の中心を定め観望から

観望の中心を定め観望から。

#### いのもたかた

観望の中心を定め観望から。